

玉名製作所の沿革

玉名製作所は太平洋戦争末期の1944年京都の島津製作所の戦時疎開工場として現在の玉名高校の講堂に四尺旋盤を設置、お祓いをしたときに誕生しました。

当時、熊本市の健軍町にあった三菱航空機製作所では飛龍という爆撃機が製造されていましたが、陸海軍による戦時疎開工場設置の要請を受けた島津製作所の幹部一行が高瀬駅（現在の玉名駅）で下車し立願寺温泉に立ち寄り一泊しました。

その頃、京都は食糧難でしたが紅葉館の豪華な山海の珍味に感激した一行はその翌朝に玉名高校への疎開工場移転を決めました。

終戦となり、最先端の航空兵器の製造技術を受け継いだ玉名製作所は京都本社から赴任していた幹部と地元有力者により産業機械メーカーとして玉名市亀甲の乾絹工場跡地に移転し新たに組織化されました。

戦後の混乱期と成長期を通して油圧ポンプ、真空ポンプ、増減速機、ギヤードモータ等を20万台以上製造し世界の企業に供給してきました。

玉名製作所が製造し島津製作所が販売する方式が長く続いたのですが1985年に小型、中型歯車機器の技術、商標、営業権が島津製作所より当社に完全に移転され国内外の顧客企業からは減速機メーカーとして知られるようになりました。

独創性を尊重する島津技術陣のDNAを受け継いだ当社は今後も伝統の技術のさらなる研鑽と新商品の開発に全力を注ぎます。